

「とても有意義な会議だった」と口々に述べたあと「お腹がすいた!」とフォークスクールのグラウンドでバーベキューを楽しんだ参加者。あか牛、ひごむらさきなどの地元食材を堪能しました。また、奥阿蘇ひよっこ会によるひよっこ踊りが披露されると一緒になって踊りだす参加者も。今年の風鎮祭で優勝した下町向上会のにわか披露され、そのコミカルな風貌が人気を集めていました。



夜の帳が下りると、キャンプの醍醐味キャンプファイヤーがお目見え。参加者のマンガにかけける情熱のように高く燃え上がりました。



お腹が満たされた後は、体育館に移動し、日本文化を代表するカラオケ大会です。歌はもちろん、「アニソン」(アニメ作品の主題歌など)。体育館には歓声が響き、盛り上がりを見せました。



学習は漫画だけにあらず。食改のお母さん方のサポートで、おにぎりやだご汁づくりの体験をしていきました。



午後には本キャンプのメインイベント「MANGA ミーティング」が体育館で開催。各国のマンガ事情がつまびらかにされました。また、各国のマンガ文化の創造について、意見交換が行われました。



山田俊明先生



9/18 (火)
マンガ CAMP 2日目

海外からの参加者がマンガ講座を学んでいた時間を同じくして、上色見総合センターで、プロの漫画家(山田俊明先生・桑佳あさ先生)と月刊コミックゼノン編集者からマンガ授業を受ける町内の小学4年生40人。

テーマは桃太郎。4コマ漫画の4コマ目を個々のアイデアで描きます。



前に出て、自分の考えた4コマ目を披露。面白い展開に会場が笑いに包まれました。

起承転結を自分で考えさせる授業です。漫画を作るうえで必要なプロセス。漫画の作り方から興味を持ってもらい、漫画の世界に入るきっかけになればと思います。子どもたちの作品は、新鮮で、私自身では思いつかない自由な発想に溢れています。桃から「太もも」が出てくるという発想はまずなかったですね(笑)。逆に子どもたちから学ばせてもらいました!

高森流



参加者インタビュー

今回のキャンプで、世界中のクリエイターとプロの漫画家の先生と一緒させてもらったのは、私にとって非常に重要な意味を持つものでした。自分自身をとっても高められたと思います。高森の方々には、さまざまなところで色々お世話になりました。深く感謝します。それと、町から見える山々からはインスピレーションを与えられました。本当にすばしかったです。



エレナ・ヴィタグリアーノさん (イタリア)



出版社コアミックスの堀江社長は、こう言います。「高森町はアーティストにとって最高の創作をする場所でしょう。これから、高森町には多くの漫画家が集い続け、世界に日本の漫画が発信される。これは、実現可能な夢であると思う」。

今回のキャンプを足掛かりに、「漫画家のシリコンバレー」を目指す発展的な高森町へ! 今後の取組に期待が高まります。

キャンプ最終日の朝。一行は、南阿蘇鉄道「高森駅」から、小学館のまんがラッピング列車に乗って高森町に別れを告げました。

9/19 (水)
マンガ CAMP 3日目



サイレントマンガって?

臨場感や、感情など技術的に細かな表現で伝える日本漫画が持つ「文法」を使ったセリフを用いない短編「サイレントマンガ」。出版社コアミックスは世界中から募集したオーディションをこれまで、十数回展開、来年以降も継続して開催されます。



作: エレナ・ヴィタグリアーノ